

令和4年度 第1回室蘭市総合戦略推進会議 議事概要

－（冒頭、事務局から人口推移について説明）－

◆議題1 令和3年度室蘭市総合戦略関連事業の実施状況について

－（事務局から説明）－

座長 : 昨年度（令和3年度）はコロナ禍で観光事業が実施できていないが、令和4年度の観光の状況はどうか。

F委員 : 入り込み状況は今年度（令和4年度）の上期がコロナ前の8割程度に回復し、観光イベントも3年ぶりに実施でき、入り込み状況に影響したと考えている。
体験型観光では北海道でアドベンチャートラベルサミットが開催される。白鳥大橋主塔登頂クルーズや手ぶらフィッシング等、新たな取り組みが室蘭でもできているが、コロナで誘客がつけられなかったが、観光客数が回復してきているので期待している。コロナ前に戻るのはまだ先になると思うが、事業者も気持ちは前向きな方向に向いており、観光客も各種旅行支援を活用しているので、室蘭の資源を体験型につなげ、室蘭での滞在時間の延長にもつなげたい。

座長 : 外国人の観光状況はどうか。

F委員 : 新千歳空港でもインバウンドが回復してきている。タイなどからの観光客の登別や洞爺湖への訪問が増えていると聞いている。

座長 : コロナ禍を経て、令和4年度の市内の経済状況はどうか。

D委員 : コロナと物価高の影響で状況が変わった印象は薄い。地元中小、零細企業からは回復してきているという声はない。コロナの感染状況、ウクライナ情勢、円高の余波で上向きとはいえない。今後の状況は見通せず、来年の状況すらも見通せてはいないようだ。

座長 : 物価高の影響は大きいと思うが、地元企業は切実な状況か。

D委員 : 物価高は切実な問題である。経営上、利益をあげるには厳しい状況である。

◆議題2 デジタル田園都市国家構想総合戦略骨子（案）について

－（事務局から説明）－

座長 : デジタルを活用した企業の動向や地域と連携した取り組みはどうか。

G委員 : 地域とのDX（デジタルトランスフォーメーション）での連携はできていない状況である。ただ、金融機関、社内でのDXは進めており、コロナ禍の当初では各種手続きの申し込みは紙で行っていた。処理に時間を要し、1週間程度、申し込みが受け付けられないといった事態が起きた。インターネットを介した（オンラインでの）申し込みに切り替え、現在はほとんど紙の受付は行っておらず、オンラインが8割になっている。

また、コロナ禍では対人での面談ができない場合があり、オンライン面談も行っている。

更に積極的に進めているのは、新規開業の支援。統計では新規開業だと3名の雇用が創出できる。事業承継、ビジネスマッチングに力を入れており、転入する方の事業承継先を探すことも進めている。テクノセンター内のよろず支援商談会を事業者向けに紹介も行っている。

座長 : スタートアップ企業の支援は行っているか。

G委員 : 積極的に支援をしたいが室蘭発のスタートアップの支援には至っていない。室蘭工業大学とも連携していきたい。スタートアップ支援は市とも連携が必要と思っている。

座長 : 市内企業におけるDXの状況はどうか。

E委員 : 簡単な取り組みから徐々にデジタル化が始まっている。例えば、冷蔵庫温度の確認として、今までは人が温度計を確認しにいていたが、システムに自動的に温度の情報が転送されるような変化や、日報などのデジタル化も行われている。

作業標準書（作業マニュアル）を動画で作る取り組みも進んでいる。作る方も楽になるだけでなく、見る方も動画の方がより分かりやすくなっている。

物価高への対応としても、企業が原価を把握できていないというのが課題。従業員や機械の稼働時間なども管理できていない。生産管理のシステムを導入し、データを取得することで値上げ変化の根拠として、値上げの交渉ができるようになる。物価をリアルタイムで把握できることで、データに基づいた交渉ができるようになってくる。

座長 : 大学での DX やデジタル人材の育成はどうか。

A委員 : 大学は 2022 年度、中期目標を定め、RPA（ロボティックプロセスオートメーション）、AI を活用したデジタルキャンパスを目指すとともに、地域社会との共創を目指すこととした。デジタル人材の育成では、ノーコードツールを活用できる人材の育成を目指している。

室蘭市が開港 150 年・市制施行 100 年の記念事業として行った「MURORAN FES」では、NTT 東日本と連携し、プログラム教育ブースを出展している。デジタル田園都市国家構想では大学を核としたイノベーション創出とあり、室工大ではあらゆる研究分野にデジタルを絡めた取り組みを考えている。室蘭市が行っている室蘭 MaaS プロジェクトなどにも関わり、DX を絡めた研究を既に進めている。

大学としてもスタートアップにも力を入れており、情報系でのスタートアップは初期投資が少なく、進めていきたいと考えている。

座長 : 既に始まっている取り組みはあるか。

A委員 : 今年、目標を定め、取り組みを始めたところである。まずは大学の中の DX を進め、地域へデジタル人材を輩出するような取り組みを推進していきたい。

座長 : デジタル人材の育成ということであるが、高校でのデジタル化はどうか。

B委員 : 今年度の 1 年生から 1 人 1 台端末を購入し、授業で活用している。昨年度からデジタル化は急激に進んできた。在校生へも Google workspace でのアンケートフォーム作成など、積極的な活用をしている。自習時間では事前に動画を撮影・作成し、Youtube で動画を公開し、授業で活用している。

探求の時間では、修学旅行のまとめとして動画を作成している。北海道教育委員会が主催する探求チャレンジにも動画を活用して発表する予定である。

現 1 年生が 3 年生になる 2 年後に地域学習として行う「室蘭学」（選択授業）では市と連携して、室蘭の良さを外向けに発信できないかと考えている。委員の方々とも連携し、室蘭を盛り上げる取り組みを行いたい。斜里の高校では観光プランを学生が検討を行っており、このような取り組みも行われるといいと考えている。

座長 : 若者の感性での動画は効果的だと思う。長い目で人口の抑制にもつながれば良い。小中学校でのデジタル化の取り組みはどうか。

C委員 : 高校よりも 1 年早く、1 人 1 台端末が支給されて、利用が普及してきている。学校ではレポートやテストも一部はデジタルで行われている。授業では、端末の

活用だけではなく、各種アプリケーションを活用するなど授業改善を図っている。今年度、校務支援システムが導入された。今までは小中学校では校務の管理システムを自作していたが、新しくシステムが導入されたことで共通の仕組みで管理ができるようになった。働き方改革としてはシステム移行し、慣れるまで成果はまだ出ない可能性があり、時間がかかると思うが、効果を期待している。

子どもみらい指針を策定（予定）に伴い、総合的な学習では市内企業を訪問し、体験する学習を進め、デジタルの活用も検討している。

座長 : 観光分野での DX はどうか。

F 委員 : まだデジタルというだけでアレルギー（抵抗感）がある方が一定数はいるが、コロナでは非接触型が求められ、QR コード（二次元バーコード）でのキャッシュレス決済が進んだ。デジタルサイネージでは動画での発信も行われ、地域の魅力の訴求効果があったと思っている。MaaS は観光分野でも注目されている。バスの予約、決済が一つの仕組みでできていくといい。室蘭市は公共交通機関で観光地にいきにくいという課題であり、バス、タクシーを組み合わせるためにも、MaaS の活用は必要だと思う。現在、室蘭市で実証されているノウハウを観光分野にも転用されたいと思う。

インバウンド観光客が増えていくと、窓口では多言語に対応するのが必要となる。常時、外国語を話せるスタッフの確保が難しいため、翻訳アプリでの意思疎通、観光情報の提供が進むといいと考えている。情報の発信と受け入れ対応でのデジタル技術活用が進んでほしい。

座長 : コロナ禍を機に、市内企業でのテレワーク実施状況などはどうか。

D 委員 : 市内企業のテレワークの状況は把握してできていないが、市内企業も DX が必要と認識はしている。まだ新たな働き方、テレワークなどに至っていない企業があるが、どのように取り組みを推進するか、情報提供していくべきか、地元企業の DX を進めていくべきかを考えている。

市の事業でキャッシュレス決済に対してのポイント還元キャンペーンを行っているが、店舗等、企業側の反応はどうか？

事務局 : 想定していた予算の倍に迫る利用状況になっている。若者はキャッシュレスの活用が進んでおり、紙で行っているプレミアム商品券よりも使い勝手がいいとの反応である。

市役所内でも DX を進めるワーキンググループを設けた。支払いが紙ベースになっている業務においても、キャッシュレス導入を検討している。

D 委員 : キャッシュレス決済が進んでいるとのことだが、新規でキャッシュレス決済を

導入したいという店舗はあったか。

事務局 : キャッシュレス決済還元キャンペーンでは、auPAY、d払い、楽天ペイを対象としており、KDDI、ドコモ、楽天が各社営業を行っており、キャッシュレス決済できる店舗も増えていると聞いている。店舗側の反応も今後のために把握していきたいと考えている。

座長 : デジタル化が推進されることで、住民の利便性が向上することを期待している。デジタル人材が地域で活躍することで、地域や企業のDXが進めばいいと考えている。消費活動のDXも進むので、地域全体でデジタル化の力が養われればいいと思う。

その他、この場で伝えたいことがある方はいるか。

G委員 : 日本政策金融公庫では、毎年、高校生ビジネスプラン・グランプリとして高校生がビジネスプランを考え、発表するコンテストを行っている。ビジネスプラン・グランプリで優勝した学生から起業家が多く出ている。室蘭市でも過去に参加した学校があり、入賞している。高校生では事業計画を考えるのは難しいと思うが、日本政策金融公庫のスタッフが支援を行っている。室蘭市でも需要があれば、各校へ訪問したいと考えているので、ぜひお声がけいただきたい。

座長 : 若い感性、力を発揮できる場になり、マチのことを考える機会になれば良いと思う。ひいては人口減少の抑制につながっていくことを期待している。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。行政だけでなく、皆様と連携した取り組みを進めることが重要だと考えており、今後の施策の推進にあたって、引き続きご協力を賜りますよう、お願いいたします。